

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部
障害福祉課障害児・発達障害者支援
平成26年度重症心身障害児者の地域生活モデル事業

本モデル事業の経過及び 武蔵野市・三鷹市の保育現場の アンケート調査

重症心身障害児生活支援協議会
会長 秋山 千枝子

モデル事業の内容

- 地域生活支援協議会の設置
- 並行保育の実践
- 保育現場のアンケート調査
- 研修会・シンポジウム開催
- ガイドラインの作成

【地域生活支援協議会】

・開催状況

H27年3月までに5回開催

・特徴

武蔵野市・三鷹市の両市の担当部課長が入る協議会
福祉・子育ての行政、NPO等の関係者による協議会

・協議会の役割

重症心身障害児者の実態把握や地域資源の把握
コーディネート
調査、ガイドラインの検討

協議会の実施

第1回	平成26年7月24日(木) 15:00~16:30	・重度心身障害児の地域生活モデル事業 ・アンケート調査 ・研修会、講演会等 ・並行保育の実践 ・ソーシャルインクルージョンに向けたガイドラインの作成 ・コーディネーターの選任と役割
第2回	平成26年9月12日(金) 13:30~14:30	・厚生労働省の地域生活モデル事業のヒヤリング ・研修会の開催 ・調査の実施 ・ケアルームの見学 ・並行保育に向けた今後の課題
第3回	平成26年12月12日(金) 13:30~14:30	・アンケート調査について 1.進捗状況 2.今後のスケジュール ・並行保育の実施について 1.進捗状況 2.今後のスケジュール ・ガイドライン作成チームの編成について 報告事項 ・研修会の結果について
第4回	平成27年2月2日(月) 13:30~14:30	・ガイドラインの作成について ・並行保育の実施状況について ・シンポジウムの開催について

【一般保育園に並行通園させる実践】

- ① ケアルームとあきやま保育室で交流(8月)
↓(保育士・看護師常駐)
- ② あきやま保育室での保育の確認(9月)
↓(保育士・看護師)
- ③ あきやま保育室と並行通園間での環境整備と
人事交流(10～11月)
↓(見学、保育士・看護師交流)
- ④ 並行通園開始(12月～2月)
(PT・OTの助言、保育士・看護師付添)

並行保育の週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00					
10:00					
11:00					
12:00					
13:00					
14:00					
15:00					
16:00					
17:00					
18:00					

利用者:4人 付添者:看護師、保育士、作業療法士

並行保育にかかった経費

- 並行保育のべ実施時間:49回243時間
- 付添者:看護師32回138時間
保育士15回105時間

交通費:123,050円(2511回)

1日往復2200円

人件費:360,600円(7359時間)

看護師 1600円/時

保育士 1100円/時

武蔵野市・三鷹市保育施設 アンケート調査

• 施設整備状況の調査 77園

武蔵野市 30園(認可17 認証13)

三鷹市 47園(認可33 認証14)

• 職員の意識調査 980名

武蔵野市 458人

三鷹市 522人

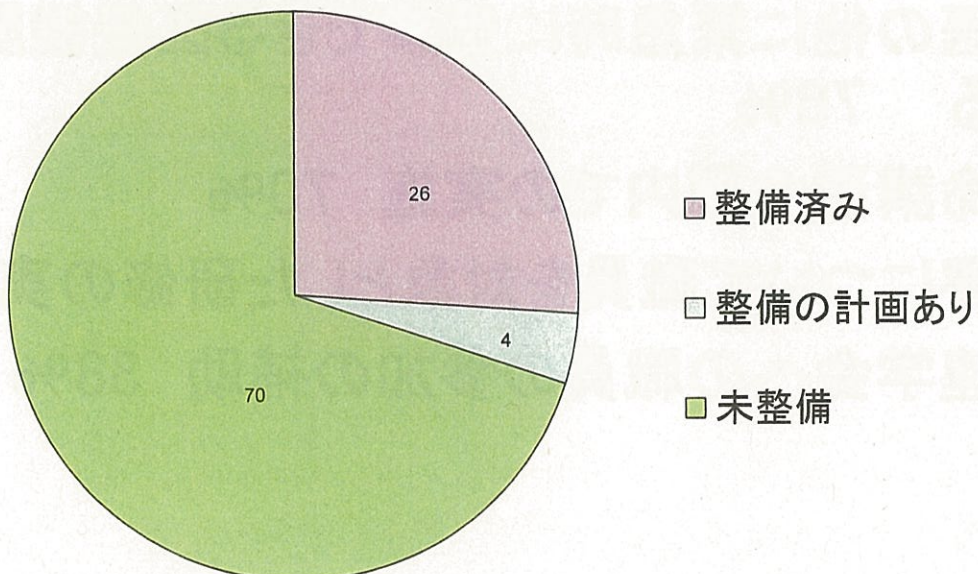
施設整備状況の調査

50施設(回収率65%)

Table1-2.各規模の該当数と在籍児童数と職員数の平均

	該当数	平均在籍児童数	平均職員数			
			全体	保育士	保育スタッフ	その他
小規模園 24~74名	24園	43.7名	19.6名	10.5名	6.3名	3.4名
中規模園 75~124名	22園	102.6名	31.9名	17.2名	9.8名	11.1名
大規模園 125名~174名	4園	138.5名	56.0名	24.0名	17.0名	15.0名

「入り口に車いすを想定した段差をなくすための対応をしてある」



その他の施設整備への取組について

- 「車いすの園児が利用することを想定したトイレの整備」 56%
- 「車いすの園児を想定したエレベーターがある」0%
- 「施設に駐車場がある」 48%
- 「車いすの園児が室内から園庭に出る際のスロープ等の設置」 28%
- 「車いすの園児が園庭から外に出る際のスロープ等の設置」 30%

その他の施設整備への取組について

- 園医の他に緊急時に受診できる医療機関が近隣にある 76%
- 救命講習の園内での実施 70%
- 障害について職員を対象とした研修の実施 58%
- 関連学会への職員の参加の補助 38%

「インクルーシブ保育」への考え方について

Table4-1.インクルーシブ保育への考えと施設の整備状況

	施設数合計	整備状況(施設数)			施設規模	
		低整備	中整備	高整備	平均在籍児童数	平均職員数
「賛同し、行っている」	11	5	4	2	89.9名	27.8名
「賛同する」	11	4	7	0	70.0名	26.2名
「賛同するが整備が必要」	25	10	14	1	72.9名	25.0名
「賛同しない」	2	2	0	0	103.5名	34.0名

「インクルーシブ保育」実施にあたり必要な整備について

Table5-1.必要な整備

	回答数
研修	35件
人員の増員	35件
予算の確保	23件
施設の改修	18件
他機関との連携	5件
その他	5件

「インクルーシブ保育」に関する意識調査 アンケート

回答432名(回収率44%)

Table1-1.各資格の所有人数と割合

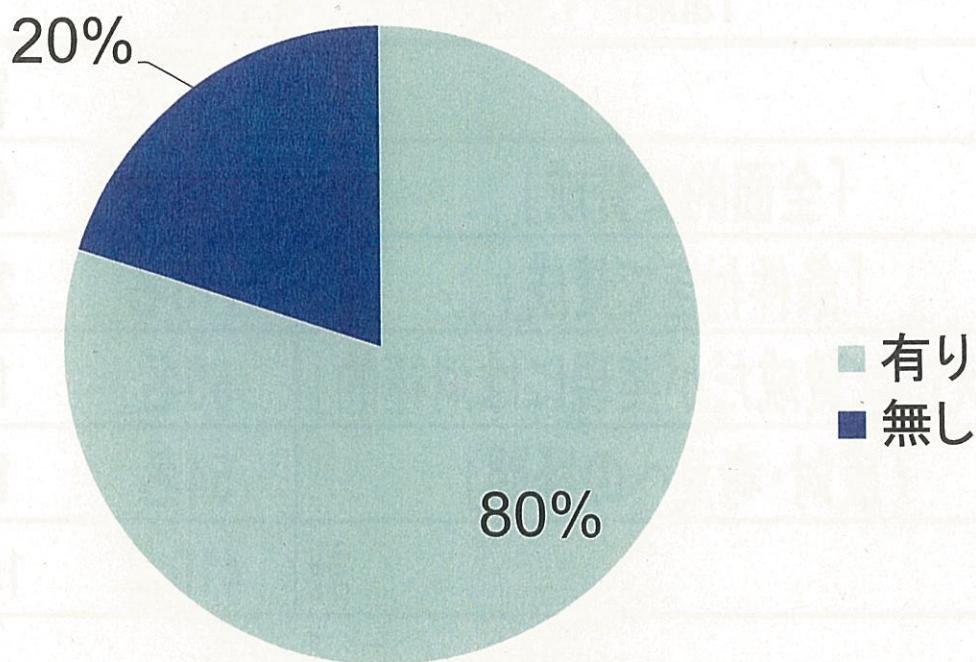
所有資格	人数	割合	平均経験年数
保育士	327名	87.9%	14.4年
看護師	17名	4.6%	21.7年
保健師	2名	0.5%	13.0年
助産師	0名	0.0%	0.0年
医療保育士	1名	0.2%	18.0年
その他	25名	6.8%	17.1年

重症心身障害児(者)」という言葉を知っているか

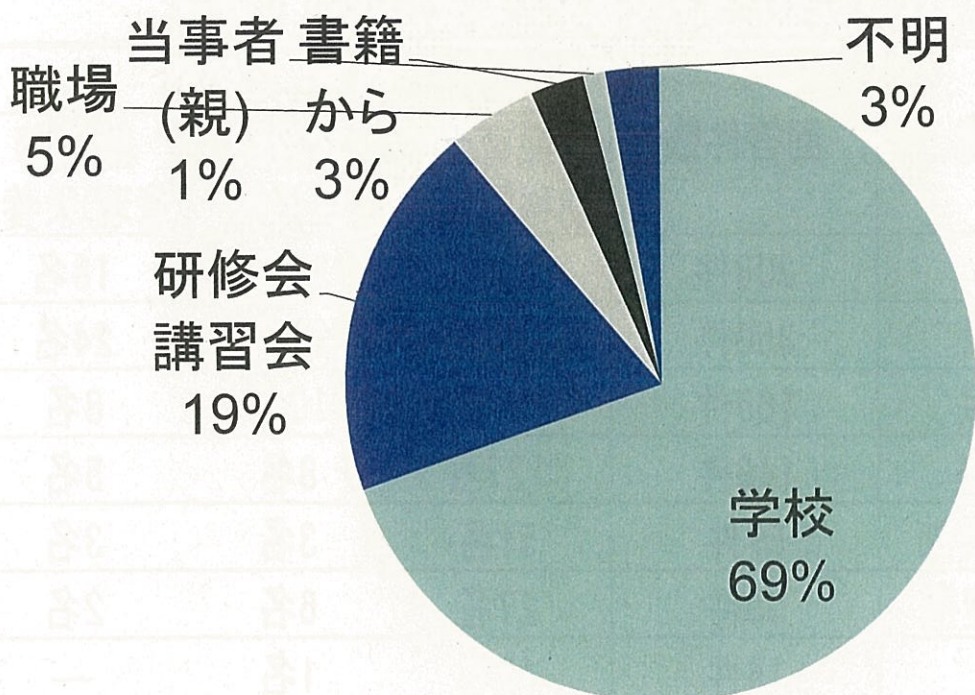
Table2-1.各項目の該当人数と割合

	人数	割合
「よく知っている」	47名	11.0%
「知っている」	247名	57.8%
「言葉自体は聞いたことがある」	85名	20.0%
「初めて聞いた」	18名	4.2%
「よくわからない」	30名	7.0%
計	427名	100.0%

「よく知っている」「知っている」人で 学んだ経験の有無



「よく知っている」「知っている」人で 学んだ場所



インクルーシブ保育への考え

Table3-1.各群の人数と割合

	人数	割合
「全面的に賛成」	178名	43.4%
「条件付きで賛成」	113名	27.6%
「考えには賛成だが実現には消極的」	65名	15.9%
「反対・考えへの疑問」	54名	13.1%
計	410名	100.0%

インクルーシブ保育を行うにあたり 必要な整備

Table4-1.実施にあたり必要な整備と回答した職種

必要な整備	回答件数	回答した職種		
		保育士 幼稚園教諭	看護師 保健師	調理師 (管理)栄養士
研修	308件	276名	14名	18名
人員の増員	350件	305名	21名	24名
予算の確保	165件	147名	10名	8名
設備の改修	148件	127名	8名	5名
保護者への周知	57件	51名	3名	3名
他機関との連携	35件	27名	6名	2名
その他	16件	15名	1名	—

アンケート調査のまとめ

- 施設整備は、車いすへの対応等は30%前後なされており、実施に必要な施設整備は、研修・人員の増員・予算の順であった
- 意識調査では、全体の約70%が知っており、学校で学んだことが大きい。インクルーシブ保育に条件付で70%が賛成しており、そのためには人員の増員、研修、予算の順に必要であった。

研修会

プログラム

司会 統括コーディネーター 大石田久宗

開会 武蔵野市健康福祉部長 笹井 肇

座長 医療法人社団千実会 秋山千枝子

15:10~16:20

講演1 「重複障害児の保育への期待」

県立鳥取総合療育センター
療育支援シニアディレクター

北原 侑

16:20~16:50

講演2 「保育所における障害児の保育実践」

品川区子ども未来事業部保育課
品川区立小山台保育園園長

栞原 睦美

16:50~17:20

講演3 「重度心身障害児の看護」

東京小児療育病院看護部

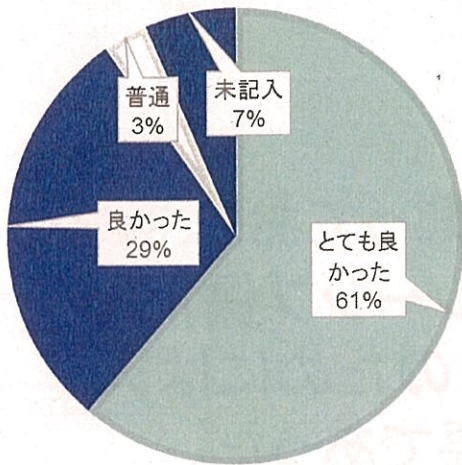
八代 博子

閉会 三鷹市健康福祉部部長

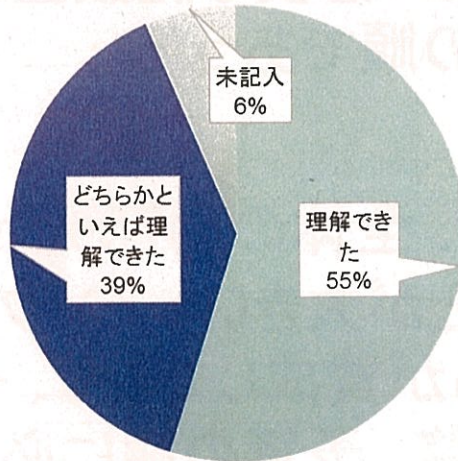
伊藤 幸寛

研修会 アンケート結果

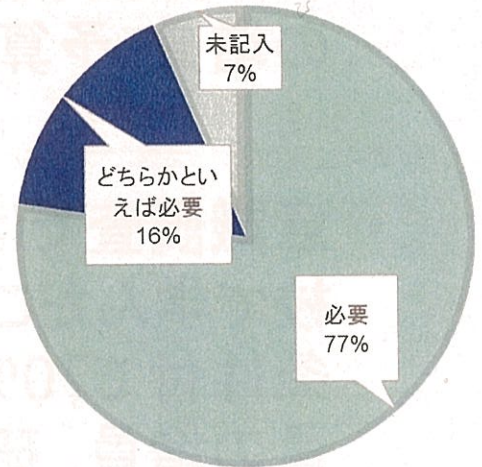
1. 研修会に参加して



2. 理解できたか



3. 研修会の実施は必要か



シンポジウム

厚生労働省
平成26年度重症心身障害児の地域生活モデル事業

シンポジウム開催のごあんない

テーマ
保育における
ソーシャルインクルージョン
を考える
～重症心身障害児の並行保育の実践～

さまざまな実践の現場から届けられる重複障害児の保育・看護・生活支援の「今」。3つの講演と現状のレポートを通じて、
重複障害児保育の最前線とその課題、これからの可能性を共に学ぶシンポジウムです。ふるってご参加下さい。

プログラム

開会
来賓挨拶 三鷹市長 清原 慶子
武蔵野市長 邑上 守正

基調講演(14:10～15:10)
座長 武蔵野市福祉部長 笹井 肇
「重症心身障害児の地域生活モデル事業への期待」
厚生労働省 社会・援護局 障害福祉専門官 田中 真衣
「本モデル事業の経過及び武蔵野・三鷹市の保育現場のアンケート調査」
重症心身障害児生活支援協議会会長 秋山千枝子
「障害児のコミュニケーション力～音楽療法を通じて～」
国立音楽大学 八重田美衣

シンポジウム(15:20～16:55)
座長 協議会統括コーディネーター 大石田久宗

1) 実践報告
地点施設 あきやま保育室、あきやまケアルーム
協力保育園 三鷹市:ちどりこども園、上連雀保育園
武蔵野市:境保育園、境南保育園
保護者代表 あきやまケアルーム保護者

2) 今後の展望
鳥田保育園 医師 菅野 徹夫
多摩保育園 医師 小森 穂子
東京小児療育病院 看護師 八代 博子
武蔵野市 子ども家庭部長 大杉由加利
三鷹市 子ども政策部長 竹内富士夫

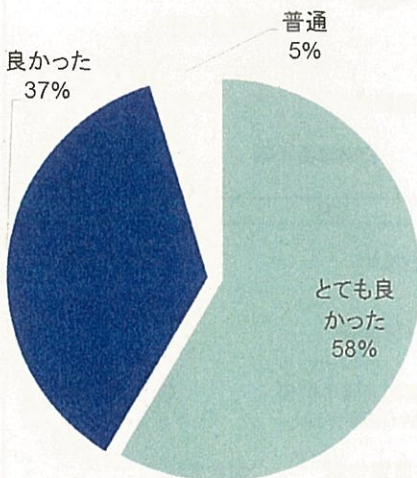
閉会
三鷹市健康福祉部長 伊藤 幸寛

実践報告から

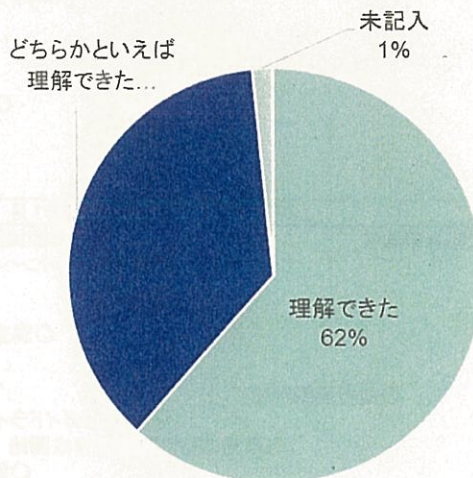
- 児童発達支援事業:あきやまケアルーム
- 中間施設: あきやま保育室
- 三鷹市協力園:ちどり子ども園、上連雀保育園
- 武蔵野市協力園:境保育園、境南保育園
- 保護者代表:あきやまケアルーム保護者

シンポジウム アンケート結果

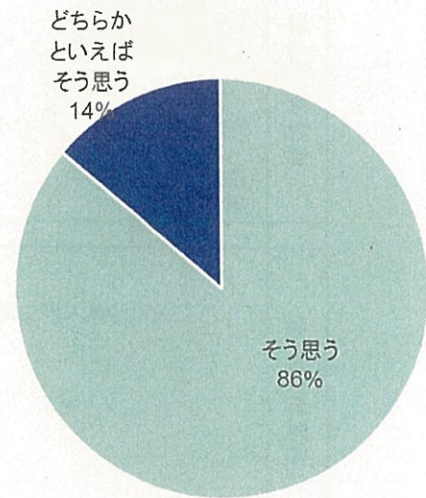
1. シンポジウムに
参加して



2. 理解できたか



3. シンポジウムの
実施は必要か



ガイドラインの作成

第1章 総則

第1 目的及び基本方針

第2 用語の定義

保育所等 交流保育 統合保育 インクルーシブ保育
障害児 重症心身障害児

第2章 実施における指針

第1 各段階の留意点

協議 事前準備 送迎 保育所で過ごす

第2 専門職の役割

保育士 看護師 各療法士

第3章 その他

第1 検証と見直し

第2 地域生活支援協議会の役割

第3 組織の連携、専門職の連携

第4 その他

事業実施スケジュール表

	平成26年4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業実施内容	(協議会)			○第1回協議会開催		○第2回協議会開催
	(コーディネーター)			○コーディネーター選任		
	(フーズビリティ調査)				○倫理委員会届	
	(並行通園・移行ガイドライン)			○並行通園準備		○調査実施 ○並行通園情報提供
	(講演会・研修会) (報告書)				○研修会準備	○研修会
事業実施内容	10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
		○第3回協議会開催		○第4回協議会 (報告書、ガイドラインへの意見集約)		○第5回協議会
	○並行通園人事交流				○調査分析・再調査	○コーディネーター終了
			○並行通園開始		○シンポジウム ○並行通園の評価	○並行通園終了
				○ガイドライン検討(原案作成)	○事業の評価報告書作成開始	○ガイドライン確定
				○報告書原案作成	○報告書確定	

【課題】

モデル事業終了後の継続／他地域への普及に向けて

- 事業の対象となる児童の範囲(区分等)
- 保育料・支給料の問題
- 医療的介入を要する事態の対応をどうするか
- 市民・スタッフの理解や浸透
- 協議会の定着(管理者・実務者)→子ども・子育て支援会議、自立支援協議会、子ども家庭支援ネットワーク等との棲み分け・連動をどうするか

【課題】

通常保育の専門性

↓ ↑ 融合

障害児保育(療育)の専門性